

沙流川

保護者向け校長通信

NO. 6

発行日
令和5年 8月 2日

「1学期終了のお礼」

7月24日で1学期も無事終了することができました。

これまで、新型コロナウイルス感染症により、多くの制限の中で「新しい生活様式」による日常を送ってきましたが、今年5月からの「5類移行」により、少しずつ日常を取り戻しながら教育活動を推進してきました。学校では、「ピンチをチャンスに！」という考え方にたち、「本当に必要な活動」「改善が必要な活動」「必要のない活動」と、これまでの教育活動を見直す機会にもなりました。今後も、何が起こるかわからない時代であることから、子どもたちに必要な教育活動を計画しながら、「学びを保証」して行きたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

さて、1学期の始業式において、「今年度の重点目標」を子どもたちと共有しました。キーワードで示すと「自己理解」「相手意識」「わくわくする学校」この3点です。この校長通信「沙流川」でも、経営方針についてご説明させていただきました。これからの時代（現在も）、学校だけでは対応しきれない課題が数多く生まれてくると言われています。もうすでに文科省では、「学びの体型性や集団としての教育の機能が弱くなる可能性」や「学びや活動などの実施主体や責任の所在が不明確になる可能性」があると指摘している答申が出されています。そのために、「分野や機能ごとの多層構造・協働体制、様々なリソースを活用」するとして、保護者や地域の方々の専門性を生かした学習体系を築くことで、「個別最適な学び」や「協働的な学び」を充実させていく必要があるという方向性を示しています。

本校では、今年度から、試行的に「学習ボランティア」の募集を行い、多くの方の目で子どもたちを見ていただき、一緒に育てていただければと考え、体力テストや水泳の補助をお願いしたところでした。町の社会福祉協議会の方々には、積極的なご協力をいただき、「体力テスト」への参加をいただいておりますが、日程が合わず、ご来校いただくことができなかったことが残念でしたが、3名の保護者のご協力を得られ、けがもなく無事に体力テストを終了することができました。ありがとうございました。

2学期からも、みなさんのご協力が必要な場面では、「ボランティア」の募集を積極的に行っていきますので、ご支援ご協力をお願いし、子どもたちと一緒に過ごす時間を作っていただければと思っております。

また、町で、「コミニティースクール（CS）」の推進を行っております。コロナ禍で思うような活動ができない状況で、地域の方々にも認識が薄くなっていたと思いますが、今年度、立て直しを図り、地域総ぐるみで子どもたちを育成する母体となる組織が作られます。日高町の子どもたちの育成目標を共有しながら、学校教育にもさらなるご支援をいただければと思っております。2学期からも、よろしくをお願いいたします。

最後になりますが、1学期終了のご挨拶が、遅れてしまったことをお詫びいたします。